

DEC. 7.1999 毎日新聞

前省長派の党籍取り消し
台湾の与党・国民党は6日、綱紀委員会を開き、総統選挙に無所属で出馬する宋楚瑜(そう・そけい)前台湾省長を支持している立法委員(国会議員)7人を含む党員21人を、1年後に回復申請ができる「党籍取り消し処分」にすることを決めた。先月の宋氏本人の除名、党幹部6人の党籍取り消し処分が続く処分で、党内引き締めが狙い。総統選では宋氏が支持率で国民党公認候補の連戦・副総統を上回っており、党内の危機感も強い。党執行部は厳しい姿勢を示すことで、支持を決めかねている党員に圧力をかけ、連氏支持を徹底させたい考えだ。
【台北支局】

DEC. 7.1999 日本経済新聞

退任後の訪日に意欲
健康不安説を否定
台湾総統
【台北6日時事】台湾の李登輝総統は六日午後、日本と台湾の學者らによるシンポジウム「アジア・オープン・フォーラム」第十一回会議の出席者と総統府で会見、来年に長野県松本市で開かれる予定の第十二回会議への出席に意欲を示した。
李総統は一九八八年に総統に就任して以来、中国の反対で訪日できない状態が

続いているが、来年五月に退任することから、一市民としての訪日を望んでいる。同フォーラムの日本側メンバーも李総統を招請する方針。
李総統は四、五の両日、台南市で開かれた同フォーラム第十一回会議の開会式に出席しなかったことについて、過労気味で、主治医から「少し休養したほうがいい」と勧められたためと説明。その上で「今は元気」と強調、一部で流れた健康不安説を一蹴(いっしゅ)した。

東京新聞
DEC. 7.1999

★退任後の訪日に前向き
【台北6日今原孝】台湾の李登輝総統は六日、日本、台湾の學者らによるシンポジウム「アジア・オープン・フォーラム」第十一回会議の出席者と台北市内で会見、来年、長野県松本市で開かれる同フォーラムに招待を受けたのに対し、総統退任後の訪日に前向きな姿勢を示した。

(夕刊) DEC. 6.1999 東京新聞

大地震、後継者の支持率低迷…

台湾・李総統に ドクターストップ

【台北6日共同】李登輝・台湾総統(とん)に近い筋は五日、李総統が過労から心臓に負担がかかり、激務を控えるようドクターストップをかけられたことを明らかにした。

総統は、四日に台南市で開かれた日本と台湾の交流



李登輝総統

シンポジウム「アジア・オープン・フォーラム」第十一回会議の開会式に出席予定だったが、主治医の診察を受けた結果、出席を取りやめ休養を取るよう指示され欠席。代わりに連戦・副総統が出席したが、総統が急きょ欠席した理由は説明されなかった。

眠れぬ日々、心臓に負担

同筋によると、李総統は九月二十一日の中部大地震の発生以来、被災地に赴き慰問を続ける毎日が続き、十分休養が取れなかったため、過労から心臓に負担がかかったという。

また来年三月の総統選を控え、国民党が分裂し、後継者の連副総統の支持率が一方向に上向かないことを気に掛け、最近よく眠れないと側近にこぼしていたと伝えられる。

李総統は五日夜、台北の公邸で中嶋綱雄東京外大(東海大教授)らフォーラム出席者と会食したが、出席者は「心労が重なっているという印象を受けた」と語った。総統は六日午後、総統府でフォーラム参加者全員と会見する予定。

台湾の李総統 来年訪日の意向 退任後

【台北6日＝河田卓司】台湾の李登輝総統は六日、総統府で、台湾で開催された日台民間国際会議「アジア・オーブン・フォーラム」の参加者や日本人記者らと会見し、来年、日本の松本市で開かれる同会議出席のため訪日する意向を示した。李総統の任期は来年五月までで、来年の会議開催時には総統を退任しているが、中国は退任後の訪日にも反対している。

宋氏支持21人 党籍取り消し

【台北6日＝河田卓司】台湾の与党・国民党は六日、党規委員会を開き、来年三月の総統選に無所属で出馬する宋楚瑜・前台湾省長を支持する立法委員（国会議員）七人と県議、市議計千一人を、党決議違反を理由に党籍取り消し処分とした。宋氏本人と宋陣営の幹部六人は先月十七日、除名ないしは党籍取り消しを受けており、処分第二弾となった。処分の理由は、同党が連戦・副総統を公認候補とした決定への違反。総統選では宋氏が一貫して支持率トップを走っている。同党は危機感を強め、李登輝総統自ら宋氏を「裏切り者」と批判し、全面対決している。同党は厳しい処分によって党内を引き締め、連任当選を目指している。

世界日報

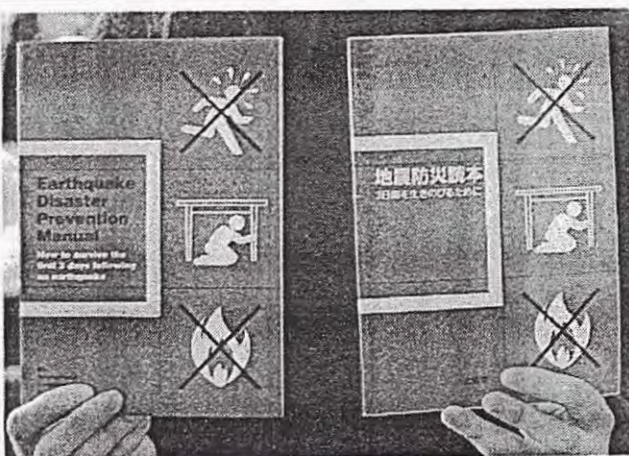
DEC. 7.1999

退任後の訪日 に意欲示す

台湾の李登輝総統は六日午後、日本と台湾の学者らによるシンポジウム「アジア・オーブン・フォーラム」第十一回会議の出席者と総統府で会見、来年に長野県松本市で開催される予定の第十二回会議への出席に意欲を示した。李総統は一九八八年に総統に就任して以来、中国の

反対で訪日できない状態が続いているが、来年五月に退任することから、一市民としての訪日を望んでいる。同フォーラムの日本側メンバーも李総統を招請する方針で、世話人の一人である中嶋領雄東京外国語大学学長は「李総統が退任した後も訪日しては困ると中国側は言っているが、そんなことになれば、日本は主権国家ではなくなる」と、李総統の訪日実現に努力する考えを示した。

三重県「防災読本」、台湾で翻訳



台湾で翻訳が進む三重県製作の「防災読本」

三重県が阪神大震災の経験を生かして製作した防災読本が、災害対応に役立つとして台湾大地震で被災した人たちに向け翻訳されることになった。この本は「住民が地震発生後の三日間をいかに乗り切るかに絞ってまとめた（三重県担当）者」点に特色があり、この絞り込んだ視点が台湾側の関心をつけた。阪神大震災で、公的な防災機関が発生後三日で本格的に立ち上がった経験を踏まえ、この防災読本は被災者自身が地震発生の際に「三重県地震防災読本」海外でも生きる阪神大震災の教訓

三日間を生きるため書きで説明している。また、切り取って安否の連絡に使う紙が挟み込まれていたり、表紙に蛍光塗料で絵文字を配して緊急時に持ち出しやすくするなどの工夫が凝らされており、こうした内容が「住民に分かりやすく、そのまま美用品として使える」と評価された（伊永所長）という。

後、三分後、三十分後、三日後に取るべき行動を箇条

阪神大震災教訓の 三重県「防災読本」 台湾向け翻訳へ

三重県が阪神大震災の経験を生かして製作した防災読本が、災害対応に役立つとして台湾大地震で被災した人たちに向け翻訳されることが決まった。「住民が地震発生後の三日間をいかに乗り切るかに絞ってまとめた」(三重県の担当者)点に特色があり、この視点が台湾側の関心と呼んだ。翻訳されるのは、同県が平成七年十二月に発行し、県内の全世帯に配布した「三重県地震防災読本」三日間を生きのびるために」。今年十月下旬、台湾の嘉義市で救援活動のため現地入りした災害救援研究所(大阪市)の伊永勉所長が、日本の防災資料の一つとして持参したところ、張博雅市長らの目に留まり、翻訳したいと申し出があった。

阪神大震災で、公的な防災機関が発生後三日で本格的に立ち上がった経験を踏まえ、この防災読本は被災者自身が地震発生後の三秒後、三分後、十分後、三日後に取るべき行動を箇条書きで説明している。また、切り取って安否の連絡に使う紙が挟み込まれているなどの工夫が凝らされており、こうした内容が「住民に分かりやすく、そのまま実用品として使え」と評価された(伊永所長)という。

中国語への翻訳は日本語に堪能な市職員らの手で進められており、今年中には製本され住民への配布が始まる見通しだ。

退任後、訪日したい

李登輝・台湾総統

【台北6日＝矢島誠司】台湾の李登輝総統の写真には六日夕、日本と台湾の学術交流シンポジウム「アジア・オーブン・フォーラム」第十一回会議(四、五日、台南市で開催)の亀井正夫団長(住友電気工業相談役)、中嶋嶺雄・



東京外語大学学長ら参加者約五十人を総統府に招き、一時間半にわたって会見した。総統退任後、日本を訪見したい意向を改めて示した。総統は最初のあいさつを除き、すべて日本語で話したが、来年五月に総統を退任したあと、十月末に長野県松本市で開く同フォーラムの次回

「民主化の歴史語りたい」

会議(最終回)に招かれている問題について、出席したい意向を改めて示すとともに、「もし出席できれば、台湾が九〇年代に進めた民主化、政治改革の歴史を話したい」と語った。

総統在任中の訪日に関しては、「(中国の抗議が予想される)日本に迷惑を掛けたくないし、自然にやるのがよい。外務省も困るだろう」と述べ、遠慮する意向を示した。

なお、同フォーラムの開会式への出席を直前になって取りやめたことから、一部で現在七十六歳になる総統の健康問題も取りざたされたが、「この通り元気だ」といいつつ、「地震の後、毎日、被災地を訪問して少し疲れが出た。主治医に過労に気を付け、少し休むようにいわれたので言うことを聞いた。心臓は少しアブノーマルなところもあるが、問題になるようなものではない」と語り、健康に不安はないことを強調した。

中国ナンバー4

李瑞環氏 あす訪日

【北京6日＝中村史郎＝】中国の李瑞環・全国政治協商会議（政協）主席が八日から十六日まで、日本を訪問する。李主席は共産党の序列四位。中国首脳の訪日は昨年の江沢民国家主席以来で、小淵恵三首相や河野洋平外相、衆参両院議長、与野党代表らと会談する。会談では、署名後、二年間も未発効のままの新しい日中漁業協定などが議題に上るものと見られる。李主席は漁業協定をめぐって漁民の反発が強まる長崎県を訪れるほか、天津市での乗用車合弁生産を目指すトヨタの工場を、福岡県内で視察する。

李台湾総統が 来秋訪日意向

【台北6日＝清水勝彦＝】台湾の李登輝総統は六日、日台学者・文化人らの集まり、アジア・オープン・フォーラムの日本側参加者と台北の総統府で会い、来年十月に長野県松本市で開催される同フォーラムに出席し、総統として台湾民主化に尽力してきた歩みについて講演したいと表明した。

日台フォーラム 台南市で開幕

来年の長野会議で解散
【台南4日共同】日本と台湾の学者、政財界人等が参加する「アジア・オープン・

フォーラム」の第十一回会議が四日、台南市議会で開幕。連戦副総統が台湾側を代表してあいさつし、「台湾海峡の安定がアジア太平洋の平和の重要な力」と、中台関係の安定的発展と緊張緩和に向け、最大の努力を継続すると強調した。フォーラムは「海に活（い）きるアジア」をテーマに五日まで開かれ、日本側は呼び掛け人の中嶋嶺雄・東京外大学長をはじめ、川勝平太・国際日本文化センター教授、金森久雄・日本経済研究センター顧問らが参加した。

フォーラムは李登輝政権誕生翌年の一九八九年に発足。毎年日本と台湾で交互に開かれ、李総統が総統を引退する来年の第十二回長野会議（予定）で解散することになっている。長野会議の期日などは近く決まる見通しだ。

今日の視角

国民党残党の村

霧社は台湾の中央、海拔一、一五〇メートル、周囲を三千メートル級の峰に囲まれた高山の村である。一九三〇（昭和五）年十月末、台湾総督府による帰順政策、警察官の横暴に憤った山岳原住民タイヤル族が蜂起し、日本人百三十四人を殺害し、その後彼も六百人以上が殺され、約三百人が自害し、多数が行方不明となった「霧社事件」が起こったところである。

私はこの山里に泊し、タイヤル族の地震被害と救援状況について調べた。その夜、近くに霧社は台湾の中央、海拔一、一五〇メートル、周囲を三千メートル級の峰に囲まれた高山の村である。一九三〇（昭和五）年十月末、台湾総督府による帰順政策、警察官の横暴に憤った山岳原住民タイヤル族が蜂起し、日本人百三十四人を殺害し、その後彼も六百人以上が殺され、約三百人が自害し、多数が行方不明となった「霧社事件」が起こったところである。

今回の旅で訪ねていった「定遠新村」では、八十二歳になる老人と話した。彼は山東省の出身。広西省をへて、タイ国境で三千人の軍隊とともに十二年間過ごしている。六一年に台湾に渡り、若い妻とともに霧社に入植し、五人の子供を育てた。息子二人はアメリカの大学に留学させている。

この戦争と革命の時代を生きた老人に、「今の中国はどうですか」と尋ねると、「少しは良くなっているだろうが、嘘ばかりだと言ふ。テレビを見て、その変化に驚きませんか」と問い直しても、やはり首を横に振る。

イデオロギーに生きた世代が現実を直視するのは極めて難しい。中国大陸にしても、日本においても、朝鮮半島でも、アジアは今も、特殊なイデオロギーに凝り固まった人々を島状に残し、二十世紀の終わりに向かって歩んでいる。（野田 正彰）